

道徳部会

研究主題 思いやりの心を持ち、進んで実践しようとする子どもの育成

1 主題について

道徳部会では、他者を思いやる気持ちや豊かな人間性の育成を目指して研究を進めてきた。今年度は、「ねらいにせまるための発問の工夫」と「道徳的価値と自分とのかかわりについて考えるための手立て」について研究を深めた。

2 今年度の取組

| 月 日 | 実践内容 | 月 日 | 実践内容 |
|-------|---------------------------|-------|--------------------------|
| 4月12日 | 第1回総合研究会 研究主題設定・年間計画作成 | 11月6日 | 第2回総合研究会 授業研究会（早口小学校） |
| 8月22日 | 指導案検討会（早口小学校） | | |

3 研究内容

(1) 授業研究

- ・期 日 平成24年11月6日（火）
- ・主 題 名 4年「思いやる心を親切な行為に」
2—（2）思いやり・親切
- ・会 場 早口小学校
- ・授業者 小山 由美子
- ・資料名 「なにかお手伝いできることはありますか？」（東京書籍）

① 授業者から

- ・学習シートに書かせる活動を忘れてしまい、発問が前後してしまった。でも子どもたちはいろいろ考えて発表していた。
- ・グループ活動を入れたいと思ったが、今日の流れにした。
- ・全員発表ができたのはよかった。
- ・終末では、子どもたちの発言を大事にして写真は後から紹介した。親切にしてあげた経験が、友だちだけでなくいろいろな人へと広がりが見られたのでよかった。

② 協 議

- ・リレー発表で意欲的に発言していた。安心して発表できる学級の雰囲気ができていた。
- ・子どもの発言が本時のねらいを達成できるように、意図的指名があってもよかった。
- ・教科や総合的な学習の時間での活動と関連付けた展開がよかった。子どもたちの発言にもいろいろな人とのかかわりが見られた。
- ・中心的な発問は勇気にもかかわるので、声をかけようかどうしようかと迷う登場人物の気持ちが資料分析にあればよかった。



【写真を見て自分を振り返る場面】

- ・シートに書かせる場面をどこにするかは悩むところである。今回は、自分を振り返る場面でシートに書かせ、親切にした時の気持ちを入れて発表できるとよかった。

- ・主人公だけでなく、女の人が抱えている恐怖にもう少し注目させると、相手を本当に思っている行動なんだということを考えることができたと思う。

(2) テーマ研究

《実践紹介～城西小学校 雄鹿 成子先生》

「効果的授業の構成」

- ・価値への導入
短時間でできる善悪についての〇×クイズの実施
- ・展開前段の工夫
主人公の気持ちについて考えを深める書く活動
書いたことをもとにした役割演技
- ・価値の一般化（展開後段）
友だちに注意できた経験とその時の気持ちを問う発問



【雄鹿先生の実践例の紹介】

(3) 指導助言（嘉藤 貴子 指導主事）

- ・話すことを喜んでいて、積極的な子どもの姿がよかった。また、周りの子どもたちの聞く姿勢ができており、日頃の指導の成果が感じられた。
- ・子どもの実態を丁寧にとらえている。また、他の教科等との関連が図られていた。
- ・教師の発問に対してよく考えられた発表がたくさんあった。教師がその発表をコーディネートするために、リレー発言と意図的指名の使い分けが必要となる。
- ・ねらいとする内容項目は、2－（2）の思いやり・親切で見知らぬ人にでも親切にできるというのが今回のポイントであった。ねらいとする内容項目について、どのように高まっていくか前後の学年を確認しながらより深く理解してねらいをしっかりとりたい。
- ・行動に移すきっかけとなった場面を中心的な発問としていたが、登場人物の心の動きから考えると、女の人がにっこり笑ってお礼を言ってくれた時のぼくの気持ちを中心的な発問とした方がねらいにせまりやすかった。
- ・主人公が相手のことを気遣い、親切な行動をしている場面を資料分析で押さえておきたい。どこで主人公の意識が変わっているかを明確にしておくことが授業の深さにつながる。
- ・展開の後段で自分の経験を話す場面では、どんなことができたかとその時の心情をあわせて問いたい。心情を伴った行為になることが大事である。
- ・終末の教師の体験談は子どもを引き付ける。
- ・実践紹介は、子どもを引き込む工夫があり子どもの実態に合わせて授業の準備をされているのがよい。今回の手立ては、1・2年に限らず他の学年にも参考になるものと思う。

4 成果と課題

(1) 成果

- ・授業研究会を通して、ねらいにせまるための発問や資料分析の在り方について研修を深めることができた。

(2) 課題

- ・価値にせまるために、子どもの発言を繰り返したり、話合いが深まるようコーディネートしたりする教師の在り方と、書く活動の取り入れ方についてさらに研修を深めたい。